

HAMAYU

はまゆう

特集 124年、受け継がれてきたもの
まごころ
誠心で原点に立ち返る

2022
June
No.714

6



まごころ
誠心でGo!

知っているようで、説明しづらい？

濱田重工のCI丸わかり

2018年に創業120周年を迎えた際にリニューアルされたCIについて、クイズ形式で
ご紹介します。あなたは、何問正解できますか？Q1 「誠心」と書いて
「まごころ」と読む。その心は？

誠心

A1

まごころ
誠心は「言ったことを成す心」を意味します。
信義と愛情をもって「約束を守る」というこ
とです。創業以来、「誠心(まごころ)」の精
神が受け継がれています。

みんなが「まごころ」をもつ

社員一人ひとりが「まごころ」をもって、社会・お客さま
に貢献します。

Q2

スローガンの「誠心 OUR
PRIDE」って、どういう意味？

誠心 OUR PRIDE

A2

私たちは、言ったことを成す心「まごころ」の
精神を誇りに、あらゆる課題に真摯に向
き合い、柔軟な発想と最先端の技術で、
最適な解決策を提供します。そのような思
いが、スローガンに込められています。

会社が目指す姿

濱田重工は、さまざまな活動から、ものづくりの未来を支
え、多くの人々が幸せを享受できる社会の実現に貢献
します。

Q3 行動指針は、何のため？

当社の行動指針

〈安環防最優先〉

基本を徹底し、安全・環境・防災を最優先します。

〈法令遵守〉

良識ある社会人として不正を許さず、法令・ルー
ルを守ります。

〈有言実行〉

社会・お客さま・社員相互に信義と愛情をもって、
言ったことを成します。

A3

企業理念を実現するために、どのように行
動すべきかを定めたものです。

Hamada Identity

行動指針は、組織・企業が持つ独自の行動ルールや行動
規範です。「企業理念」「スローガン」「行動指針」を併
せて、Hamada Identityと呼びます。

Q4

コーポレートブランドマーク
(ロゴマーク)の四角が
表しているものは？

A4

「心」です。上昇する4つの四角は、企業
理念である誠心ととともに、さらなる「飛躍」
「成長」を目指す濱田重工を象徴しています。
「スケール感」や「先進性」も感じさせる
斬新なマークです。

表現しているものは？

「ロゴマーク」は、企業理念「まごころ」を「飛躍する「心」
HAMADA」としてデザイン化しました。未来に向かって
大きく飛躍する濱田重工を独創的に表現しています。

出会いは財産

持ち場・立場で大切にしている誠心^{まごころ}

誠心^{まごころ}は「言ったことを成す心」ですが、社員それぞれが持ち場・立場で大切にしているまごころもあるはず。社員の皆さんに、「あなたにとっての誠心^{まごころ}とは何か？」を教えてくださいました。

01 お客さまに高品質を届ける

技術部 技術グループ長 黒瀬 伸司さん



私は1992年に入社以降、シリコンウェハー事業部および鉄鋼部門の技術グループ業務を幅広く担当させていただいております。現在は技術部技術グループで、生産設備の設備投資計画および品質環境管理監査の企画推進や、生産性向上の施策など、各部門のフォロー・サポートが主な業務です。

私がこれまで技術畑一本で業務を経験してきた中で感じる誠心^{まごころ}とは、お客さまのニーズに応えるべく、付加価値

の高い品質・機能を提供することです。特に鉄鋼部門におきましては、顧客である日本製鉄(株)様のパートナー企業として、製鉄所の安定生産に寄与すべく、要求される品質を担保するのはもちろんのこと、プラスαの付加価値を付けることを意識して業務に取り組んできました。

全ての業務において満足できる成果を出すのは難しいですが、満足できる成果が出せお客さまから感謝のお言葉をいただき、Win-Winの関係が

強まって絆もさらに深まったと感じるときは格別です。現状に満足することなく、今後も引き続き精進していきたいと思います。



公共工事の品質検査に対応(左)

02 プライドを持ち約束を守ること

産機事業部 プラント機械設計グループ シニアマネジャー 濱田 拓郎さん



産機事業部では、お客さまが所望される一品一様の機械製品を企画・提案からアフターサービスまで、シームレスで提供し、社会に貢献することをミッションとしています。私は2007年に入社して以来、産機事業部で仲間と共に設計業務一筋にモノづくりに携わってきました。

最も印象深いのは、入社7年目に先輩方と一緒に設計主担当として参画した、当社と初めてお取引をされるお客さまとのシップローダ更新プロジェ

クトです。当初は、既存機を全体更新する計画でしたが、お客さまが望まれる機能性を向上しつつ、程度良好な機体は最大限流用する、コスト面でもメリットのある部分更新を、独自に企画・提案しました。

工期はお客さまの所望される、約12カ月の超短納期。設計・製作の段階では丁寧に各種の仕様を説明し、初めての取引のため、きめ細かな打合せも重ねました。おかげで現地工事を終え、試運転の頃には、馴染みの

お客さまのように思えるほど、距離が縮まったように感じました。お客さまの協力もあり、試運転から実操業まで驚くほど円滑に立ち上がり「本当に約束していただいた通りでしたね」と感謝されたことがうれしかったです。「これが誠心^{まごころ}!」だと実感しました。



シニアマネジャーとして部下をリード(左)

03 現場の地力の素晴らしさが誠心^{まごころ}

八幡支店 整備・工事課長 磯田 豊さん



1977年に入社してすぐに君津支店に行き、工作課で学ぶように言われました。しばらくして技術係に変わりましたが、課員はたったの3人。そこで多くのことを経験できたことが、技術スタッフとしてのベースとなっています。八幡支店や大分支店に長く勤務しましたが、社外出張で全国各所を駆け巡っていた時期もありました。

八幡支店1回・大分支店で2回、高炉の改修を経験できたことも財産です。上司と部下で課題を共有し、

お互いに切磋琢磨しながら、みんなでまじめに仕事に向き合ってきました。45年勤めて感じるのは、どの時代でも“現場の地力の素晴らしさ”があります。諸先輩方が築き上げてきた「約束した仕事は、誠心^{まごころ}をもって最善を尽くし、やり遂げること」を礎に、今も成り立っています。どの仕事も大変でしたが、部下が付いてきてくれるから、頑張ることができました。現場の仕事も人と人のつながりが大切で、チームワークで壁を乗り越え、信頼と

思いやりが芽生えます。SNSで一方通行の情報伝達となり、コロナ禍でアフターファイブの付き合いができないことも、つながりがつくりづらく、もどかしさがあります。会社への愛着と後輩たちに負担をかけたくない気持ちがあるので、もう少しだけ働きます。



若い社員と気さくに対話し、風通しもバッチリ(左)

04 互いを信じ、全員で試練に立ち向かう

シリコンウェハー事業部 技術グループ マネジャー 浦田 憲一さん



2012年に入社以来、技術グループに所属し、ウェハーの品質や生産性向上に関わる改善・開発などの業務を行っています。これまでの仕事の中で、「これほどの誠心^{まごころ}を実感したことはない」という経験がありました。D棟の竣工式を間近に控え、新規導入装置の立上準備もほぼ整いつつあったさなかに起きた、熊本地震に関わる経験です。

4月16日午前1時25分、地震が発生しました。翌17日に工場へ行くと、「工場は本当に復旧できるだろうか」

と誰もが思うほど大きな被害を受け、立ち入りもできない状態でした。工場の前には、事業部長やグループ長たちが車座になり、復旧について話し合っています。結局その日は「自宅が被災した社員もいるだろうから、とにかく来られる人で頑張ろう。明日から復旧が忙しくなるから今日は早く帰って休め」の言葉で解散となりました。

その日から全棟が再稼働し、2017年5月26日にD棟が竣工式を迎えるまで1年と41日。工場の復旧を信じ、

互いを信じ、早期復活の言葉のもと、それを果たす——今までの人生の中で、これ以上の「誠心^{まごころ}」を見たことはありません。



部下の考えを尊重しつつアドバイス(奥)

まごころ
誠心 OUR PRIDE

私たちが出会った“沁みる誠心”エピソード

永年勤続受賞者の皆さまに、これまでの業務で出会った
感動の“沁みる誠心”エピソードを聞きました。



Episode1

高め合える仲間との出会い 会社に残って良かった

勤続40年

八幡支店 製鋼課係長
篠原 賢二さん

1982年に入社し、八幡支店製鋼課(当時の第二生産課)に配属。当時のモールド造塊、BL-CC 溶鋼輸送、亜鉛華製造をはじめ、製鋼操業支援の監督者業務を経て、現在に至る。

「必要とされる人材に」 20代から思いを抱く

1980年代といえば就職難の時代。そんな時に私は縁があって当社に入社しました。同期はたくさんいたものの、不景気による影響で、社外派遣される人や他部門の応援業務に行く人が数多くいました。そして、それらを断って退職する仲間の姿を見てきました。

私自身も、1989年10月に千葉県君津市の「開発センター」(精密加工センター)新設の際、5カ月間の応援業務を経験しています。27歳のころの出来事です。それまでの鉄鋼事業からうって変わり、半導体事業につながる仕事は慣れないものでしたが、今シリコンウェハー事業部で活躍中の皆さんと、楽しく仕事

ができたのは良い思い出です。

その経験をした20代のころから、「職場で必要とされる人になりたい」という思いが強くなり、物事に対しては自分でよく考える癖を付けました。また、同世代で仕事に発奮し、取り組む人をたくさん見てきたので、常に自分も刺激を受けていたように思います。

製鋼課の変化に まごころ 誠心をもって柔軟に対応

その後、経験したことのない製鋼操業支援業務に異動になり、同時に班長に就任して初めて部下ができました。現場仕事は一人作業が多く、部下について聞きながら覚えるしかありません。現場・現物を自分で直接見て、質問し

て理解を深めていくにつれ、作業指揮を出せるようになりました。

製鋼操業支援の仕事は幅が広く、毎日行う業務もあれば、年に1回の業務もあり、緊張感も大きいものでした。上司が厳しい時期もあり、当時は「やらされた…」と思っていたことでも、後から「やってきてよかった」と気づくこともあります。なかでも、製鋼課の業務拡大の際に、職長代行を務めて3つの現場を見ていたときに、試練の時でした。

振り返ると、これまで周囲に助けられてやってこられたと感謝しています。その恩返しには及びませんが、60歳を過ぎても部下の皆さんをできる限りサポートし、現場力を上げることで、社業を発展させたいと願っています。



Episode2

人間関係に恵まれ
壁を乗り越える

勤続40年

光支店 安全衛生グループ長

福田 康治さん

1982年に入社し、耐火物施工、プレキャスト製造、耐火物リサイクル設備の立ち上げなどに従事。2009年から安全衛生グループに勤務。

現場作業以外の出向経験で
視野が広がる

当社に入社して、気づけば40年が経過していました。私の転機は、現在の日鉄ステンレス(株)に、2度出向したことです。出向先で、当社社員は私一人だけ。それでも周囲の皆さんは協力会社社員の私に、厳しさと優しさをもって、いろいろなことを教えてくださいました。

最初の出向は28歳の時で、その際は補助の仕事が中心でしたが、30代後半の2回目の出向は、管理職業務にまつわることを経験しました。直営の方から、「濱田重工の福田さんに出向してほしい」とご指名をいただいたことが、とてもうれしく、不安より、異なる環境で仕事をする興味が勝りました。これまでの

現場とは違う、デスクワークでの管理職業務を経験し、仕事の計画をはじめ物事を自分で考えていくことや、資料作成のノウハウなど、熱心に指導していただいたことが今の礎となっています。

私の家族=光支店社員に
支えられて今がある

社内で目標とする先輩がいたことも、私が仕事で頑張る糧となりました。先輩たちの意識が高く、私も必死についていったように思えます。高校の先輩でもあった2人の管理職を超えたいのですが、今でも超えることができないと感じるほど大きな存在です。現場の部下の方にも、「福田さんと一緒に仕事できて良かった」と言われ、定年退職者からの

言葉が私の財産となっています。

今は安全衛生グループ長として、厳しいことも言わなければなりませんが、現場の方が一生懸命ついてきてくれますし、支店長も支えてくれるおかげで、支店の風通しが良いと感じています。上司・先輩・同僚・後輩に恵まれて、40年勤務できました。今は世代が異なる若者の気持ちも受け止め、話をよく聞いて接していきたいと思います。支店は一つの家族です。子どもを守るために、親が何をすべきかを常に考えることが、会社経営や支店運営の継続のために必要なことであり、それがまごころで誠心につながっていると思います。



Episode3

八幡・君津・大分の 高炉改修の経験が誇り

勤続40年

君津支店 舞浜営業所 所長
久保田 章さん

1982年に入社し、現在の八幡支店工事課に配属。当時は八幡製鉄所構内で整備工事の仕事を請け負い、また、八幡・君津・大分製鉄所の高炉・水砕改修工事や新規鉱山工事、公共工事など、当社としての新たな分野も経験。2017年に君津支店舞浜営業所に転勤となり、現在に至る。

派遣先企業との出会いが転機

私は28歳の時に他企業に派遣され、製鉄所の高炉改修を経験させていただきました。君津や名古屋など派遣先では監督者として仕事をする事になり、苦労しましたが、皆さんが「会社が違って同じ立場」とフォローしてくださり、乗り越えられたと思っています。そこでの実績を評価していただき、派遣先の方から「久保田が担当するのであれば、お願いしたい」と仕事を依頼されました。

当時の濱田重工は、高炉改修とあまり縁がなかったのですが、2001年に君津製鉄所3高炉改修工事を受注。私は工事所長の立場として携わりました。高炉改修の工期はタイトで、計画外のこともたくさん発生し、骨が折れるもの

でした。救われたのは、やはり仲間の存在。上司や部下、現場スタッフや協力会社の存在です。皆さんと一丸になれたおかげで、2003年の君津製鉄所4高炉改修の仕事につながっています。

自分が上の立場でも 対等な関係で信頼を得る

その後も、2004年の大分製鉄所2高炉水砕改修工事、2012年の君津製鉄所2高炉改修工事、2014年の八幡製鉄所4高炉改修工事などに携わり、大変な時もみんなで頑張り、一仕事終えたときの達成感は最高でした。仕事で悩むことも多くありましたが、上司が気にかけて「お前の考え方は正しいけど、今はそう考える時ではないのでは？」

と否定せずに諭してくださり、信頼してくれていたと感じます。

どうしよう…と悩んでいたことも、何とかなるもの。仕事は、どうやって人と人がつながっていくかが大切です。協力会社に対しても、対等な関係だと私は考えます。彼らの能力がなければ、仕事できません。私は協力会社との付き合いが長かったため、対等だと意識しなければ、続けてこられなかったとも思います。

5年前に、君津支店舞浜営業所に転勤になり、これまでとは環境が変わりました。今は頼りになる部下たちが日々奮闘しています。周囲に支えられ、どんな環境でも続けてこられたのだと振り返り、深い感謝の念を抱いています。



Episode4

熊本地震被災からの
復旧が最高の喜びに

勤続30年

シリコンウェハー事業部
製造グループ 主任

渡辺 憲治さん

1992年4月に入社し、製造グループの洗浄工程に配属。当時の熊本工場（1990年10月竣工）にはA棟しかなく、少人数で操業を支えていた。1996年2月、2棟目となるB棟の竣工後はB棟業務も経験。2021年に主任となり、現在に至る。

22歳の監督者代行業務が
未熟だった自分を変えた

熊本工場は、今では4棟目のD棟まで建設され、大規模工場となっています。私が18歳で入社した当初は、ここまで拡大されるとは思っていませんでした。今は工場発足間もない頃から働いてきたことを、誇りに思っています。当時は自動化が進んでおらず、人が作業することも多く、未熟だった私は先輩たちについていくのが精一杯でした。確かに指導は厳しかったのですが、その中に優しさがあったおかげで、ここまでやってこれたと思っています。

入社から4年後の22歳の頃、監督者代行業務を任されました。就任してからは模範となる行動や仕事の依頼の仕方などを厳しく指導され、未熟だった

自分を省みるきっかけとなりました。そのおかげで、若いうちから、責任感を持って仕事に取り組めるようになったと感じます。今は「変わるチャンス」を与えてくださった会社と先輩に心から感謝しています。

まごころ
誠心をもって
安全で風通しの良い職場に

最大の試練といえば、2016年4月に起きた熊本地震による工場の被災です。被害の大きさにショックを受け、復旧できないのでは…と不安に苛まれたことを思い出します。被災直後から全社の皆さんや取引先の皆さんから支援や励ましをいただいたことも忘れられません。

復旧作業は現場を熟知したメンバー

で話し合いながら進め、リスクが予測される作業は必ず上司の指示を受けて行いました。上司の指示や支援がなければ乗り越えられなかったケースがいくつもあったからです。時間はかかりましたが少しずつ工場の稼働範囲が増え、全面復旧できたときには、これまでで最高の喜びと達成感を味わうことができました。通勤時、工場内に建てられた復興記念碑を見て、いまだに感慨深さを覚えます。

昨年主任となってからは、安全で風通しの良い職場づくりを強く意識するようになりました。そのためには横の連携はもちろんですが、普段からの声かけや思いやりが大事であると実感しています。理想とする監督者を目指し、まごころ誠心をもって接することを心がけていきます。

生き生きと働いている若手社員のON/OFFを大解剖!
毎号、各部門の10代・20代の社員をクローズアップします。

外観検査で 品質確保に寄与

ICチップの基盤となる半導体材料の外観検査を行っています。製品にキズがないかを確認して次工程に送る上で、見落とすとお客さまに迷惑がかかってしまうため、集中力を高めてミスを防いでいます。

また、1枚でも検査枚数を上げることを意識し、自分で目標数を設定しています。入社以来、自分なりにコツをつかみ、スピードアップしてきました。



後から見返しても分かるように、細かくメモを取り仕事を覚えます

多能工を目指し知識を吸収

現在の目標は、8・6インチを扱うB棟の工程をすべてマスターすること。自分が担当する工程以外も理解することで視野を広げ、さらにスキルアップしたいです。実務を経験していない工程の仕事を覚えるのは大変ですが、先輩方に教わりながら勉強しています。

後輩ができてからは、声掛けを意識。三交代に慣れていない後輩が、仕事に集中しやすい環境をつくることに努めています。



頼りになる先輩に恵まれていて、分からないことはすぐに聞きます

自ら目標設定し 検査枚数を 挑む!



シリコンウェハー事業部 製造グループ
たちばな けいた
立花 恵太さん(20歳)

2020年に入社。熊本県熊本市出身。お客さまから預かったウェハーを再生加工する熊本工場で、最終検査工程を担当し、強い責任感で仕事に臨む。物覚えが良く、全体像を把握することに長けている。後輩指導や他職場の仕事を覚えるなど、新たな領域にも挑戦中。

友達 40%

三交代でもうまく調整して遊んでいます

筋トレ 60%

家やジムでよく運動します

立花さんの
元気の素

私も応援!



驚きの吸収スピード

高濱 智行さん

立花くんは素直で笑顔が似合う好青年です。最終検査工程で与えられた仕事を淡々とこなし、仕事に対して向上心も高く、担当工程以外の工程も覚えていくので頼りになる存在です。ますます成長していくことを期待しています。

OFF

運動で心身の健康をキープ

中学でバレーボールを始め、現在も継続中です。会社の先輩方と楽しんだり、昔から入っていたチームで活動したりと、週2、3回の頻度で行っています。ポジションはスパイカー。チームでボールをつなげていくところが、バレーボールの魅力だと感じています。

高校の頃から筋トレにハマリ、週に3、4回鍛えています。運動すると気分がスッキリしますし、健康維持にもつながるので、休日はジムに行くことも多いです。

ほかの職場の方と話す機会ができるのもうれしいです



OFF

友達とバーベキューが定番に

1、2カ月に1回ほど、友達と集まってバーベキューをします。お肉だけではなく、焼きそばや焼きおにぎりなどもつくります。友達と過ごす時間も、私のリフレッシュ方法の一つです。

大好物はラーメン。特にとんこつラーメンが好きで、いろんなお店に食べに行っています。



スノボなどのアクティビティも楽しみます(左が立花さん)

◆次号は本社のKirari輝く人をご紹介します。